

障発0613第2号

平成29年6月13日

各 都道府県知事 殿
指定都市市長

厚生労働省社会・援護局
障害保健福祉部長
(公 印 省 略)

依存症対策総合支援事業の実施について

アルコール、薬物、ギャンブル等の各種依存症対策の推進については、かねてから格段の御配慮を賜っているところであるが、各地域における一層の依存症対策の推進を図るため、今般、別紙のとおり「依存症対策総合支援事業実施要綱」を定め、平成29年4月1日から適用することとしたので、その適正かつ円滑な実施を図られたく通知する。

なお、別紙の3. 事業の内容(1)①の医療提供体制の本文の「別に定める基準」については、別途、通知する。

依存症対策総合支援事業実施要綱

1. 事業の目的

これまで、アルコール健康障害、薬物依存症については、急性中毒や離脱症状、その他の関連する身体疾患に対する医療提供を行ってきた。さらに、アルコール健康障害、薬物依存症、いわゆるギャンブル等依存症（以下「依存症」という。）については、一部の専門医療機関において、依存症そのものの回復を目的にした治療を行っており、公的機関における相談・指導や知識の普及、障害者総合支援法に基づいた各種サービスの提供等による支援を行っているほか、「依存症治療拠点機関設置運営事業の実施について」（平成26年3月31日障発0331第54号）、「依存症家族対策支援事業の実施について」（平成27年5月22日障発0522第3号）及び「依存症者に対する治療・回復プログラムの普及促進事業の実施について」（平成27年5月22日障発0522第5号）に基づき、事業を実施してきたところである。依存症は、適切な治療と支援により回復が十分可能な疾患である一方、依存症の特性（患者本人や家族が依存症であるという認識を持ちにくいこと。）や依存症の専門医療機関・専門医の不足等から、依存症患者が必要な支援を受けられていない状況にある。

このため、本事業は、都道府県及び指定都市（以下「都道府県等」という。）において、医療機関や精神保健福祉センター、保健所、市町村、民間団体・回復施設、保護観察所等が相互に有効かつ緊密に連携し、その責任、機能又は役割に応じた包括的な支援を提供することで、依存症患者、依存症に関連する問題（健康障害、虐待、DV、借金、生活困窮等）を有する者、依存症が疑われる者、依存症になるリスクを有する者及びその家族等（以下「依存症患者等」という。）の地域におけるニーズに総合的に対応することを目的とする。

2. 実施主体

本事業の実施主体は、都道府県等とする。ただし、実施主体は事業の一部を外部に委託することができる。

3. 事業の内容

都道府県等は、次に掲げるものについて、地域の実情に応じて必要な施策を実施することとする。

なお、都道府県等は、事業の実施に当たって必要となる人員を配置することができるものとする。

(1) 依存症地域支援体制推進事業

地域における依存症の支援体制を構築するため、当事者を含む民間団体（自助グループ等を含む。以下同じ。）や医療機関をはじめとした関係機関による検討会を開催し、次の事項について協議する。

① 医療提供体制

依存症患者が適切な医療を受けられるようにするため、別に定める基準に基づき、アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症に関するそれぞれの専門医療機関の選定及び医療機関間の連携方法等について協議する。なお、都道府県等において選定された専門医療機関のうち治療拠点となる医療機関を1カ所又は複数箇所選定し専門医療機関の連携の拠点とすること。

② 相談支援体制

アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症に関する相談の拠点（以下「相談拠点」という。）を設けるとともに、当該相談拠点と関係機関との連携方法等について協議する。相談拠点を設けるに当たっては、次の点に留意すること。

(ア) 関係機関と連携し対応するため、依存症相談員を配置すること。

(イ) アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の依存症関連問題に関する相談窓口であることを明示し、周知すること。（明示例：アルコール健康障害関連お悩み相談窓口、薬物依存症関連お悩み相談窓口、ギャンブル等依存症関連お悩み相談窓口等）

(ウ) 民間団体を含む関係機関と十分な連携をとる体制ができていること。

③ 地域支援計画

アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症に関する、それぞれの地域支援計画を策定することが望ましい。

地域支援計画の作成に当たっては、都道府県等は、依存症患者等の状況、地域の社会資源や支援の実施状況に関する情報収集とそれらの評価に努め、地域支援計画に反映させること。

なお、都道府県のアルコール健康障害の地域支援計画については、アルコール健康障害対策基本法（平成25年法律第109号）第13条に基づく「都道府県アルコール健康障害対策推進計画」の策定をもってアルコール健康障害の地域支援計画に代えることができる。

(2) 連携会議運営事業

依存症患者等に対する包括的な支援を実施するため、行政や医療、福祉、司法を含めた関係機関が密接な連携を図るとともに、地域における依存症に関する情報や課題の共有、研修計画の調整等を目的とし、都道府県等が指定する機関（精神保健福祉センター等）が中心となり、定期的に関係機関による連携会議を開催する。連携会議の開催に当たっては、アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症それぞれに関係する機関が異なる場合には分科会を設けることが考えられる。

(3) 依存症専門相談支援事業

相談拠点において、(1)の②の(ア)及び(イ)の体制の確保に努め、相談者の状況に応じた適切な相談・指導を含めた依存症に関する支援を実施する。

なお、支援の実施に当たっては、医療機関や民間団体、地域の社会資源の状況の把握に努めること。

(4) 依存症支援者研修事業

依存症患者等に対する支援を行う人材を養成することを目的として、「依存症対策全国拠点機関設置運営事業の実施について」（平成29年6月13日障発0613第1号）の別紙「依存症対策全国拠点機関設置運営事業実施要綱」に基づき、依存症対策全国拠点機関で実施する指導者養成研修等を参考にするとともに、指導者養成研修を受講した者等を活用し、次の研修を実施する。

① 依存症相談対応研修

依存症患者等への相談支援を行う者を対象とした、アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症それぞれの特性を踏まえた相談支援に関する研修。

② 依存症医療研修

精神科医療機関（依存症治療を専門としない医療機関を含む。）や精神科医療機関以外の医療機関（内科診療所や救急医療機関等を含む。）に勤務する医療従事者を対象とした、アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症に起因する精神症状の対応等に関する研修。また、アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症が背景にある疾患で治療を受けている潜在的な患者の早期発見、早期支援の対応等に関する研修。

③ 地域生活支援研修

依存症患者等の早期発見・早期介入を目的に、潜在的に依存症患者等に対応する機会がある生活の支援を行う者（市町村職員、民生委員、保護司、福祉事務所職員、ハローワーク職員、障害福祉サービス事業所職員、介護職、地域包括支援センター職員、薬剤師、栄養士など）を対象とした、アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症それぞれの特性を踏まえた支援の研修。

(5) 普及啓発・情報提供事業

依存症患者等が依存症であるという認識を持ちにくいことや依存症患者等が社会からの差別・偏見を恐れて相談・治療につながりにくくなっているという課題の解決を目的として、依存症は誰もがなり得る「疾患」であること等を周知する普及啓発活動を行う。（例：小冊子・リーフレットの作成及び配布、市民向けフォーラムの開催等）

また、情報の不足から必要な支援につながっていない者に、精神保健福祉センター等の相談場所等を周知するなど、利用可能な社会資源について情報提供を行う。

なお、これらの取組を行うに当たっては、支援機関や当事者だけでなく、関連事業を実施する民間団体の活用について検討すること。

(6) 依存症の治療・回復支援事業

精神保健福祉センター等において、アルコール依存症や薬物依存症などの物質関連障害や、ギャンブル等依存症などの行動嗜癖障害を対象として、SMARPPをはじめとした集団治療回復プログラムを実施する。プログラムの実施においては、地域の特性に応じたプログラムを使用し、依存症からの回復を目指す多くの者にプログ

ラムを提供できるよう努めること。事業の実施に当たっては、民間団体と連携を図ること。

なお、開催に当たっては、会場の設営等において話しやすい雰囲気醸成されるように努めること。

(注) SMARPP (Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program)

… 覚せい剤依存症の治療を目的に開発されたプログラム。現在は、その一部を改変し、アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症を対象にしたプログラムが実施されている。患者が自らの飲酒、薬物使用、ギャンブル等に至る考え方や行動パターンの分析を促し、飲酒、薬物使用、ギャンブル等から自らを避ける具体的な方法を見つけられるようにする集団療法。

(7) 依存症患者の家族支援事業

精神保健福祉センター等において、依存症患者の家族に対し、認知行動療法を用いた心理教育プログラムのほか、家族会や講演会（家族教室）の開催、個別の相談支援等を行う。事業の実施に当たっては、民間団体と連携を図ること。

なお、開催に当たっては、会場の設営等において話しやすい雰囲気醸成されるように努めること。

4. 国の助成

都道府県等がこの実施要綱に基づき実施する経費については、厚生労働大臣が別に定める「精神保健費等国庫負担（補助）金交付要綱」に基づき、毎年度予算の範囲内で、本事業全体の経費の半分について国庫補助を行うことができるものとする。

5. 秘密の保持

本事業に携わる者（当該業務を離れた者を含む。）は、依存症患者等のプライバシーに配慮するとともに、正当な理由がある場合を除き、業務上知り得た情報等の秘密を漏らしてはならない。

6. その他

本事業の実施に当たっては、厚生労働科学研究データベースや国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）における研究の成果物を含めた専門的な知見を活用すること。